

やすらぎ

京都市立病院
広報誌

2014

夏



三宅八幡宮(左京区)

特集

最先端手術支援ロボット

- ◆ 京都市立病院の強化ポイント
- ◆ 地域医療連携レポート 一色整形外科医院
- ◆ 病気と食事対策① 「高血圧」



地方独立行政法人京都市立病院機構
京都市立病院

ごあいさつ

京都市立病院機構

京都市立病院 院長 内藤和世



京都市立病院は、昨年春に新館がオープン、今年3月には本館改修が終了し、平成21年から続く病院整備事業は院内保育所や庭園等の付帯施設を残すのみとなり、来年3月の完成に向けてラストスパートに入っています。

広報誌「やすらぎ」では、整備事業により京都市立病院に新しく加わった機能はもちろんのこと、地域医療連携レポート、イベントや取組についてもご紹介していきます。この広報誌を通して、京都市立病院をより知っていただき、皆さまの健康・長寿にお役立ていただければと思います。

また、当院は平成26年4月に法人理念を踏まえて、病院憲章を改定いたしました。新たな理念と憲章を胸に刻み、地域住民の皆さまに最適な医療を提供できるよう、職員一同努めて参りますので、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

— 京都市立病院機構理念 —

京都市立病院機構は

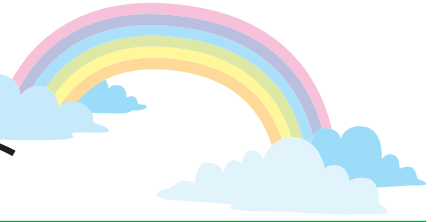
- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって健康長寿のまちづくりに貢献します

「京都市立病院憲章」

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のこもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

紹介します

京都市立病院の強化ポイント



京都市立病院は、「地域がん診療連携拠点病院」や「周産期医療2次病院」の指定を受けており、地域の中核病院として、がんや心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病を中心とした高度専門医療や、小児医療、出産前後の母子を対象とした周産期医療などを提供しています。また、「救急告示病院」や「第二種感染症指定医療機関」、「地域災害拠点病院」などの政策医療の拠点となっています。

平成25年3月11日に新館がオープン、今年3月に本館の改修を終え、政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療、地域医療の支援機能を大きく充実、強化した新しい病院に生まれ変わりました。

「やすらぎ」では、今号からこれらの強化した機能を紹介していきます。

京都市立病院機構は、平成23年4月に地方独立行政法人化し、京都市立病院と京都市立京北病院を運営しています。互いに連携・協力し、より良い医療サービスを提供します。

強化したポイント

1. 地域医療連携を推進します

- ▶ 医療、介護、福祉の連携の推進
- ▶ 病病連携、病診連携の推進

2. 市民に安全と安心をお届けします

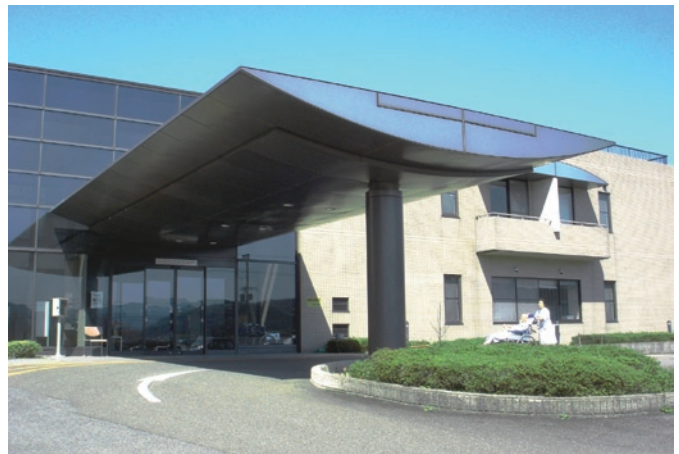
- ▶ 救命救急機能の拡充
- ▶ 災害に対応できる機能強化
- ▶ 感染症専門病棟の開設
- ▶ 周産期、新生児医療の充実
- ▶ 脳卒中センターの開設
- ▶ 血液浄化センターの充実

3. 高度先進医療に対応します

- ▶ 造血幹細胞移植の充実
- ▶ がん医療の充実
- ▶ 手術支援ロボットの導入
- ▶ 心臓・血管病センターの整備

京都市立京北病院

京都市の面積の約4分の1を占める広大でかつ高齢化の進行が著しい京北地域における唯一の病院であり、一般病床のほか、訪問看護ステーション、4箇所の診療所、介護老人保健施設、通所リハビリテーションを併設し、身近なかかりつけ医として、また、地域包括ケアの拠点としての取組を進めています。



最先端手術支援ロボット

『ダヴィンチ』



理想的な手術支援が得られ 泌尿器科では保険の適用も可能

泌尿器科 部長 清川 岳彦

すでに大半をロボット支援手術に移行

昨年の9月から手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」による腹腔鏡下前立腺全摘手術を開始しました。京都市内の大学病院(京都大学医学部附属病院及び京都府立医科大学附属病院)に次ぐ導入で、当院では泌尿器科が最初に実施し、すでに数多くの手術実績をあげています。「ダヴィンチ」(米国製)は軍事・宇宙開発の先進技術を応用して開発された最先端医療ロボットで、米国では前立腺全摘除術の実に約8割がこれによって行われ、欧米の標準療法として広く普及しています。これまで当院では前立腺癌の根治療法として放射線療法と手術療法をご提供してきました。特に手術療法に関しては厚生労働省の厳格な施設認定制度をクリアして、2012年から3D内視鏡による腹腔鏡下前立腺全摘手術を施行しました。しかし、

非常に難易度が高く熟練を要する手術でした。この課題を「ダヴィンチ」によって乗り越えることができたのです。現在では大半をロボット支援手術に移行しています。また、保険が適用されるのも患者さんにとって大きなメリットとなっています。地域の医療機関で受診中の方々も、かかりつけの先生に一度ご相談してください。

さらに選択肢が拡大した 先端診療体制

前立腺全摘手術では根治を前提に、術後も排尿や勃起の機能を維持することが求められます。しかし、前立腺はスペースの狭い骨盤底に位置し、その周囲を各機能を司る重要な血管や神経、尿道括約筋などが取り巻いており、極めて緻密な手術を行わなければなりません。この高度な要求に際立つ柔軟さと正確さを兼ね備えた機動性で応えてくれるのが「ダヴィンチ」です。術者は操作部で手術内視鏡カメラを操作し、3Dの高精度拡大映像で組織や鉗子を細部まで確認しながら手術を進めます。手の動き

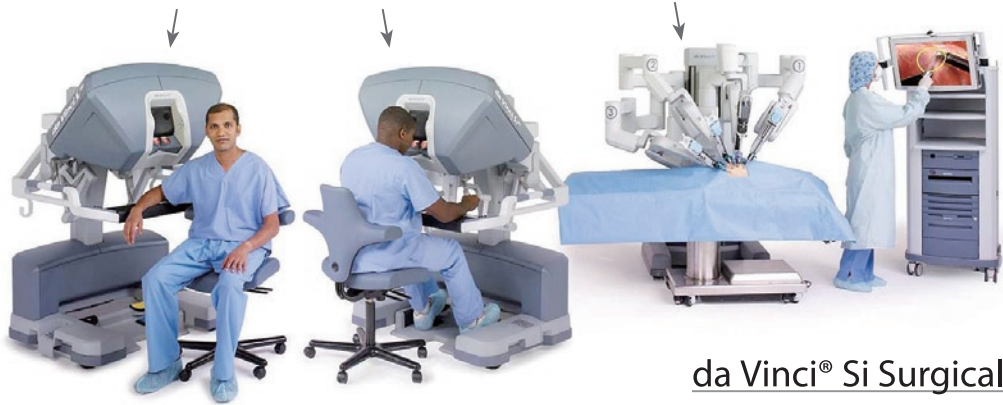
は実際よりも細やかな動きに変換され、手ぶれも制御されてロボットアームに伝達されます。鉗子などを取り付けるアームの関節の可動域は大きく、人の手よりも自由で繊細な動きが可能です。また、術中の出血量も大幅に抑えることができるようになりました。「ダヴィンチ」によって理想的な手術支援が得られるようになり、前立腺癌根本治療のほぼすべての選択肢を備えた診療体制(「前立腺癌センター」)を実現することができました。現在、前立腺癌患者は著しく増加しています。早期に発見すれば、高い確率で根治できます。少なくとも50歳を過ぎた方はPAS(前立腺特異抗原)検査をお勧めします。手軽に行える血液検査です。



サージョンコンソール (1台は操作用、1台は教育用)

ペイシェントカート

ビジョンカート



da Vinci® Si Surgical System



ロボットの高精度機能により 精緻な手術も可能に

消化器外科 副部長 小濱 和貴

「ダヴィンチ」の3つの際立つ特徴

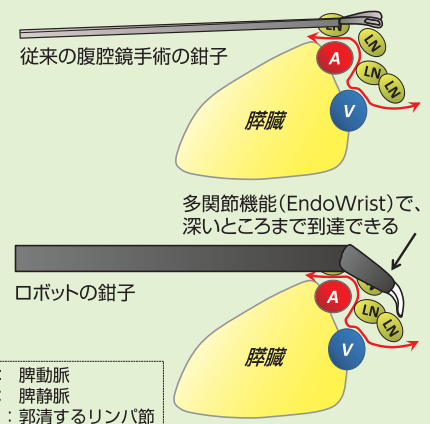
当科では本年2月に手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」を導入しました。手術による身体への負担を軽減し、根治性を高めるのが目的です。最も普及しているのは米国で、日本の導入実績は現時点で世界第2位(150台以上)です。システム改良も急速に進み、その最新型を胃癌手術に用いています。「ダヴィンチ」はサージョンコンソール・ビジョンカート・ペイシェントカートの3パートで構成されています。患者の間近に設置されたペイシェントカートのカメラが捉えた患部映像をビジョンカートで3-D画像化し、術者はこれをサージョンコンソールで見ながらペイシェントカートの鉗子を操作して手術を行います。「ダヴィンチ」ならではの長所は大別して3つです。一つ目は鉗子を術者の手のように360度自在に動

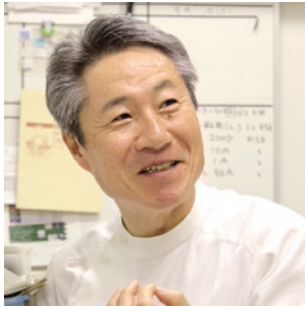
かせる「鉗子の多関節機能」。その再現精度は極めて高く、スムーズであり、患部に直接触れているような感覚で手術できます。二つ目は術者の手ブレを制御し、ミリ単位の精緻な手術を可能にした「手ブレ防止機能」。三つ目は奥行きのある3-D高画質によってより確実に安全な手術を実現した「3-D画像」です。

リンパ節郭清も緻密・安全かつ容易に

これらの際立つ高機能は再発予防のために行うリンパ節郭清にも大きく役立ちます。特に進行癌の場合は膵臓上縁の奥深いところにあるリンパ節も取り除かなければなりません。しかし、これまでの腹腔鏡手術に用いていたストレートな形状の鉗子は先が曲がらないために膵臓が障害物となって到達しにくい部分が生じていました。この課題が「ダヴィンチ」によって解消され、難易度の高かったこの郭清が緻密・安全かつ容易に行えるようになりますと期待されています。なお、将来的には大腸癌や食道癌にも「ダヴィンチ」を活用したいと考えています。

当科ではこのような最先端の「ロボット支援手術」をはじめ他の消化器の癌に対しても様々な外科治療のオプションをご提供しています。消化器内科とも連携し、栄養士・療法士・薬剤師・看護師などによるチーム診療も重視しています。また、地域の医療機関の先生方とも密に連携して、そのお力を積極的に借りながら、さらに質の高い治療体制を構築していきたいと願っています。ちなみに、消化器外科領域の「ロボット支援手術」はまだ保険が適用されていません。ただし、今後「先進医療」に認可される可能性があります。この場合、患者の方々に大きなメリットをもたらす混合医療が実現します。





治癒に向けて併走する 地域医療を目指す

一色整形外科医院 院長
京都市中京西部医師会 会長
一色 哲志

特出した病院との連携を確立

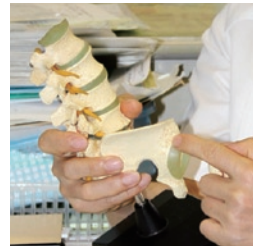
当院は15年前の1999年4月に開業し、暫くは地域連携に関して手探りの状態でしたが、各病院の積極的なご協力を得て確かな連携を確立することができました。現在は、京都市立病院をはじめ専門分野や救急対応に特出した5～6施設と連携しており、手術などを終えて再び当院に来院されるようになった患者様からも、「良い先生を紹介していただいて、本当に感謝しています…」といったお礼の言葉を数多く頂いています。

医療連携では情報の共有が大切ですが、この点に関しても万全で、手術の内容や最新の検査結果、投与している薬剤などを連携先の診療情報提供書により把握することができます。更に手術を前提に相互に診療するケースもあります。2年前の股関節変形で手術に踏み切った患者様の場合も、その数年前から京都市立病院・整形外科の田中千晶先生にも同時進行で診断をお願いしていました。実施する時期を見極めるためです。同病院の関節外科は際立つ診療実績（昨年度の関節手術216例）を誇り、人工関節外科センターは田中先生が中心となって国際的レベルの整形外科として機能しています。難しい手術でしたが、術後のリハビリも上手くいき、今は当院に通院しながらスイミングやスポーツジムで身体を鍛えておられます。

フェイス・トゥ・フェイスの 連携を

現在、整形外科医院で診療を受けている患者様の約90%は高齢の方々ですが、70歳以上の女性の半数は骨粗鬆症を併発しています。そのため、骨折するケー

スも非常に多く、軽く尻餅をついただけでも背骨の圧迫骨折が起こります。いわゆる脆弱性骨折です。しかも、1つ椎体骨折を生じた患者が1年以内にもう1つ椎体骨折を起こす



確立は、20%前後に達しています。骨密度は若い人の約70%を保持する必要があるため、50%未満になるとその回復には困難を極めますので、早期に治療を開始し、気長に治療を続けることが最善です。これには当院のような地域の開業医が適しており、地域医療連携が有効だということです。来院された患者さんと外来治療を続けながら、治癒というゴールまで併走することがベストです。ただし、疾患の悪化で手術が必要になれば、信頼できる病院の先生方に依頼。術後にあらためて通院していただき全快を目指す。これが当院の考える理想的な地域医療連携の在り方です。現在、京都市立病院では地域の整形外科医が集うカンファレンスを定期的に行っています。これは非常に有意義で、ぜひ続けていただきたいと願っています。フェイス・トゥ・フェイスの連携が大切だと思うからです。更にこれからは、整形外科開業医の往診も必要だと感じています。



一色整形外科医院

〒604-8823
京都市中京区壬生松原町54-117
TEL 075-322-7775



病気と食事対策⑩

「高血圧」

1日に摂取する
塩分量を6g未満に抑える

日本人の平均
食塩摂取量
1日 10~11g



栄養科 栄養管理係長
管理栄養士 林 聡志

疾患や病態に応じた 個別管理

栄養科では日々の食事だけでなく、チューブによって流動食を投与する経管栄養や、点滴で栄養や水分、電解質などを補う輸液なども含めた総合的な観点から栄養管理を行います。入院時には、まず患者さんの栄養状態を評価し、栄養管理計画書を作成します。さらに、高度な栄養介入が必要な場合は、医師、管理栄養士、看護師、薬剤師などによる医療スタッフ連携のNST(栄養サポートチーム)が、栄養改善を行います。また、褥瘡回診や嚥下回診、緩和ケア回診、病棟カンファレンスにも管理栄養士が参加し、チーム医療活動の一端を担っています。

現在の栄養管理の大きな特徴は個



選択食の例



食思不振食
の例



別管理の徹底です。以前は年齢層などで大別した管理を行う流れにありましたが、最近では患者さん一人ひとりの病態と嗜好に合わせた管理が主流となっています。当院には今回の食事対策のテーマである塩分制限食をはじめ糖尿病、脂質異常症、肝臓病、貧血、胃切後術後などの各種疾患に応じた食種があり、口内炎、無菌、嚥下などに対応した食事も提供しています。例えば、化学療法によって食欲不振に陥った患者さんに対して、医師と相談し、食べやすい食事の提案も行います。麺類、寿司、イタリアンなど、店屋物も含めたメニューで食欲回復に役立っています。

血圧と食事の関連を 「可視化」で確認

高血圧症に対する食事療法では、1日の摂取塩分量を6g未満に抑えるようにしています。日本人の平均摂取量は10~11gです。約2倍ある摂取塩分を、6g以下に落とすのは容易ではありません。例えば、お味噌汁一杯で約2g、中ぐらいの大きさの梅干しが約1g、きつねうどんを汁まで飲めば、これだけで6g前後に達してしまいます。さらに、野菜や肉、魚などの中には自然塩(ナトリウム)が1日総量として1g程度含まれており、これらも考慮すると、朝食は約

1g・昼食約2g・夕食約2gといった塩分量を充てなければなりません。しかも、美味しくなければ続きません。そこで、病院食では減塩醤油を用い、汁物は極力減らし、お魚は表面だけに振り塩で味付けするなどきめ細やかな工夫を行っています。

ご家庭での自己管理は、まず「可視化」です。手製のグラフ帳に日々の血圧を記録。それに添えて1日の食事(メニュー)を記入します。「今日は塩辛を食べた」、「味噌汁を2杯飲んだ」などを具体的に記してみると、血圧と食事の関連が明白になり、減塩を行い、血圧が実際に下がると、実感が得られて改善意欲が出てきます。また、塩分の多いうどんやそばの汁は残し、丼物は避け、漬物や梅干しなども我慢しましょう。腎臓や心臓に問題がなければ、果物や野菜に多く含まれているカリウムを摂ることも大切です。調味料や加工食品などに注意して下さい。毎日の積み重ねが成果につながります。ちなみに血圧を下げるには、運動も重要で、身体に負担になる激しいスポーツではなく、ウォーキングを継続して行うとよいでしょう。



健康教室「かがやき」

「健康はつくるもの」です。一人ひとりが健康づくりに取り組み健康でいていただけるように、その健康づくりを応援する当院各科講師による健康教室を開催します。

- 日 時 毎月第3金曜日 午後2時30分～3時30分
- 場 所 京都市立病院 新館7階ホール2
- 定 員 先着順50名(予約不要)

9月19日(金)

『消化器がん～大腸がんの治療～』

10月17日(金)

『更年期障害といわれたら』

禁煙教室 ～吸う人も吸わない人も知って得するタバコの不思議～

タバコ煙の成分やニコチン依存症のしくみ、タバコによる健康被害、禁煙のコツなど、様々な視点から話をします。禁煙希望者には医師などが具体的なアドバイスを行うほか、その場で当院の禁煙外来を予約することができます。

- 日 時 毎月第2・4金曜日 午後2時～午後3時
- 場 所 新館7階ホール2
- 対 象 京都市立病院に入院や通院している方に限らず、禁煙に興味のある方ならどなたでも

糖尿病教室

糖尿病は、療養を怠ると数多くの恐ろしい合併症が現れる反面、適切な治療を続けていけば、健康な人と変わることなく生活することができます。糖尿病についての正しい知識を持って、糖尿病と向き合っていきましょう。

- 日 時 毎月第1・2・3木曜日
午後3時～午後4時30分
- 場 所 新館7階ホール2
途中の回から参加していただくことも可能です。

がん患者・家族のサロン「みぶなの会」

がんで療養中の患者さんとそのご家族の集まりです。患者さん同士で、色々な悩みをお話したり、情報交換ができます。人と話をしたり、話を聞くだけでも、気持ちが軽くなるものです。気軽な気持ちでご参加ください。

- 日 時 毎月第3水曜日
午後1時30分～午後3時30分
- 毎月第4水曜日
午前10時～午後3時
- 場 所 新館7階サロン
- 対 象 がん患者及びその家族

学習会

日時：奇数月の第3水曜日
午後3時～3時30分
場所：新館7階ホール

9月17日(水)

『がんに向き合う食事のヒント』

編集後記

もうすぐ9月になりますが、まだまだ残暑厳しい日々が続きます。今号の特集では、手術支援ロボットを取り上げましたが、いかがでしたか。今後も当院の取組をわかりやすくお伝えできるよう、努めて参ります。心身の健康に広報誌「やすらぎ」が少しでもお役に立てましたら幸いです。

やすらぎ 2014・夏号 2014年8月20日発行

発行：京都市立病院機構 京都市立病院

事務局：〒604-8845

京都市中京区壬生東高田町1番地の2

TEL 075-311-5311 FAX 075-321-6025

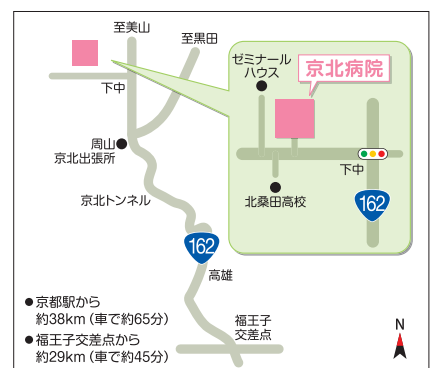
京都市立病院

〒604-8845
京都市中京区壬生東高田町1番地の2
TEL 075-311-5311(代)
FAX 075-321-6025(代)
<http://www.kch-org.jp/>



京都市立京北病院

〒601-0533
京都市右京区京北下中町鳥谷3番地
TEL 075-854-0221(代)
FAX 075-854-0825(代)
<http://www.kch-org.jp/keihoku/>



- 京都駅から
約38km(車で約65分)
- 福王子交差点から
約29km(車で約45分)